有難い時代の惠み　一家を擧げて[[1]](#footnote-1)

李光洙改め　香山光郎

『はからがきでね、それで香山と名をつけました。しろのまでつたはる氏をつくるのですから、をくよりしましたよ。といふのは、の天のをさせるでせう。は李光『光』をとつて光郎としました。ミツヲと讀んでもよけクワウラウとんでもよいのです。もちろん、うちのもこの姓をり、やにも、しい姓名をとほして、いにれたをに[あ]はすつもりです。』

の[[2]](#footnote-2)、李光が郎とるについては、かうふとがあるのである。

とかくりといふものは――とまつたをふほどではないが、のにつて、とをするにあるもののには、のきにわざとをけないことをりにするがないこともない。といふは、のでなをうみし、このでをこねまはすことにである。李光氏もはそのの一なのだが、石にでをこねまはすことはしない。

『の二は二、三男は、は、は、それから嫁に千[、]にと、それぞれつけることにしましたが、これらのはたいてい、これまでのをにして式にあらためたものです[[3]](#footnote-3)。、がつかつてゐる式の姓は、せいぜい七百年からはいつたもので、それは、とじの姓をつかつてゐました。つまり、々とかとかいふは、にはくはれてゐたものです。そこで、の一によつて、が式の名にかへるのは、するに、七百年のにかへるやうなもので、にへば、からりてゐたをすてゝ、れのにかへるやうなものです。これはがたからさうするのだとふより、さうするがしいからさうするのであるとふべきで、くなことなのですよ。の思のやを、のやるなどで、されることを、インテリはまないがあるものですが、のインテリはが一日もはやくになりつて、をこのにくことがもなであり、インテリのつのではないでせうか』

1. 『國民新報』1940年1月21日号 [↑](#footnote-ref-1)
2. 「大御所」のルビが間違って「だいぎよしよ」になっている。 [↑](#footnote-ref-2)
3. 次男の創氏名は光昭で、三男、嫁、孫は実在しない。この記事は『毎日新報』1939.12.20記事リメークしたものと思われる。 [↑](#footnote-ref-3)